

制御システムの「ニコス」

マークテックが買収

マーキング装置等のシナジー創出

アルコニックグループで非破壊検査・マーキング装置事業を手掛ける子会社のマークテック(社長・西本圭吾氏)は、製造現場の制御システムなどを手掛けるニコス(山口県下関市)を完全子会社化した。製造現場における作業の機械化が加速している中、制御システムや電気設計の開発で多くの実績と知見を持つニコスを傘下に置くことで、既存の非破壊検査・マーキング装置ビジネスなどでのシナジー発揮を目指す。



西本社長

ニコスは、制御装置大手メーカーの出身者らが2001年に立ち上げたシステムエンジニア会社。売上規模は約3億円。工場ライン制御システムや設備監視システムなどFASシ

ったが、このほど事業譲渡を探っていたニコスの意向を受けて株式取得を判断した。ニコスの細川久志社長は取締役として残り、新社長には西本圭吾氏が就いた。西本社長は「機械装置分野の電気設計者やソフトウェア開発に長けた人材の確保は非常に難しいのが現

は現在、専用制御システムにパソコン・ソフトウェア・汎用PLCを用いる動きが加速している。鉄鋼業やプラントメーカーでは1990年代に導入した制御機器・システムが更新時期を迎えているほか、自動車産業では工場の省力化・トレサビリティニーズが高まっている。ニコスに対する引き合いも強まっているものの生産能力の問題から営業開拓は限られていたが、マークテックの傘下に入ることで収益機会も増える」とみている。

一方でマークテックはニコスを傘下に収めることで非破壊検査やマーキング、風・環境試験事業といった既存事業とのシナジーを期待している。西本社長は「既存事業の電気設計やソフトウェア設計をニコスに集約することでシステムの内製化ができるほか、マークテックの既存の販路でニコスの能力を提案することもできる」(西本社長)とするほか「アルコニックグループの製造加工会社に対するFA・OAシステム開発提案の可能性もある」(同)とした。このほかニコスをマークテックの西日本地域における技術部隊の拠点として活用することも検討している。

システム、品組み込みソフトウェア開発(マイコン組み込み製品のソフトウェア開発、I/Oドライバ、BIOS等のチップ制御ソフトウェア)などを手掛け、大手鉄鋼メーカーやプラントメーカーなどと取引実績がある。

マークテックはニコスの売り上げの3割近くを占める取引会社。20年近く協力関係にあ

